

H29.8.3.(木)

宮崎牛V3の夢

◇◇4

17和牛オリンピック

★大輝店、発見!!

串間市崎田の和牛農家、鎌田秀利さん(53)の1日は朝6時、約200頭がぐんぐん牛舎を歩き回ってこら始まる。一頭一頭の前で立ち止まり、餌の減り具合や体調を確かめた上で、餌を準備。牛舎や餌槽の掃除などもこなし、時間が過ぎていく。作業を終えるのは、早くても午後5時過ぎ。鎌田さんは「牛は命引き換えに私たちを生かしてくれ。妥協せずに向き合っていくのが僕の使命」と肝に銘じる。

鎌田さんは同市・福島高を卒業後、県外の専門学校で畜産を学んで帰郷。約20年間、別の農場で腕を磨き、2004年に独立した。今では肉質を競う県内の共進会や共励会、常に上位の名を連ねる。

全国和牛能力共進会(全共)の「肉牛の部」は、24カ月未満での出品が条件。通常より半年ほど早く食肉処理するため、餌の配合や量を切り替えるタイミングなど、卓越した技術が求められる。鎌田さんが初めて挑戦したのは、07年の鳥取大会。何も分らないままの挑戦で、県代表の座はつかめなかった。

同大会で県勢が初の日本一になったことで、出場への意欲はますます高まった。「餌の調整やストレッチを与えない飼いや、さらにこだわらざるようになる。12年の長崎大会では、初出場ながら7区で優勝に当てる優等首席を獲得。最高賞の内閣総理大臣賞も手にし、連覇に大きく貢献した。



妻幸美さん(中央)と夫婦で日本一を目指しつつ「若者に魅力を伝えたい」と意気込む鎌田秀利さん(左)＝串間市崎田(伊川真基撮影)

鎌田さん夫婦

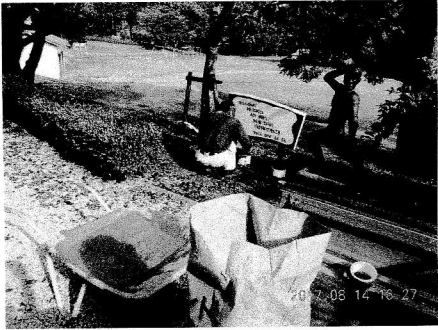
若者に魅力伝えたい

宮城大会も7区に出場する。「結果は分らん。ただ、できを注いだきた自負がにじむ。今回こそはすべてやっている」。回は妻幸美さん(40)も種牛の部

力強い言葉の裏には、牛に全力を注いだきた自負がにじむ。今回こそはすべてやっている。回は妻幸美さん(40)も種牛の部を成し遂げたい」

(村永哲哉)

立派な看板に本城君も大喜び



学校の宝!!

本城君の看板を地域の鎌田若徳さん・島田正弘さん、河野幸さんが新しく作ってくださいました。そして、8/4、鎌田さんが看板の足場をセメントで固めてくださいました。ありがとうございました。本城君も、鎌田さん・島田さん・河野さんも、私たち本城の宝です。

地域の宝!!

本校の保護者である 鎌田 秀利さんが大きく取り上げられました。子どもたち、学校、本城地区で3連覇を応援しています。9月の宮城大会まで、あと少し。頑張ってください。

第3部

精鋭たち

あと35日

